

京でみつけた きもの美人

第6回

着倒れの街・京都で出会った
きもの美人をご紹介します。
その美しさの秘密に迫りました。

祇をん新門荘 若女将

山内 理江さん

自分らしさが楽しさを生む

爽やかな黄色の袴のきもの姿で出てくれた「祇をん新門荘」の山内理江さん。ウィリアム・モリス考案の柄からインスピレーションを受けた模様の反物を、好みの色に染めて眺めてもらったきものだそう。

「この色はお店の人に薦められたです。最初はもっと落ち着いたトーンを選んだんですけど、若いから、このぐらい明るい色が似合うよって言われて、挑戦してみたんです」昔は背伸びをして地味な色ばかり着ていた山内さん。大学卒業後に家業の旅館で働き始めるも、当初は継ぐつもりはなかったと言います。「ところが、働き始めて二カ月後

に女将である母が倒れてしまった。代役でお客様の前に出るようになったんです。最初は失敗ばかりで、着付けもマナーもわからない。スタッフフや出入りの芸舞妓さんに教えてもらいながら、必死でやっていました」きものも落ち着いた色ならしっかり者に見えるだろうとシックなものばかり選んでいたそうです。

「今は、ようやく年相応に明るい色や自分のパーソナルカラーを知って選ぶようになりました。まだまだ勉強中ですが、やりたいことができている実感がありますね。すごく楽しいです」と笑顔を見せる山内さんに、仕事への充実ぶりを感じます。

〈プロフィール〉

京都市出身。1949年創業の「祇をん新門荘」の家に生まれる。2002年に入社し、「祇をん新門荘」の若女将に。旅館のホームページを充実させ、「若女将ブログ」も執筆中。客室のプロデュースや新プランの考案など、旅館の発展に努めている。



祇をん 新門荘

【住所】京都市東山区祇園花見小路新門前
【電話】075-561-8011
【HP】<https://www.shinmonso.com>



後姿

今年新たに眺えた、鮮やかなきものに合せるのは、10年以上愛用している唐帯。